

高梁市総合戦略有識者会議 第 2 回会議資料

2025/10/07

項目	主要論点
<p>○ R7改訂版人口ビジョンの考え方と将来推計（案）【資料3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 転入・転出、出生率、婚姻率の現状・課題整理 ・ 人口ビジョンの目的・目指す姿 ・ 推計方法 ・ 将来人口推計（案） <p>○ 後期基本計画・次期総合戦略策定に向けて【資料4】</p> <p>1 第1回有識者会議での意見</p> <p>2-1 後期計画で目指す姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国県動向と主要な社会情勢変化による「重要ポイント」の変化 ・ 内閣府 地方創生2.0の視点 <p>2-2 高梁市後期計画・総合戦略の重要視点</p> <p>《視点》「幸福度」の高いまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 市民アンケートによる現状の市の幸福度：全国・県との比較 ⇒ 市民アンケートによる幸福度と関連性の強い施策テーマ <p>○ 幸福度に関する基礎分析結果について</p> <p>3 全体スケジュール</p> <p>4 今後調査等の予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後のアンケート調査、ヒアリング調査実施予定 	<p>《R7改訂版人口ビジョン》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「目指す姿」のあり方 ・ 将来人口推計の設定 <p>《後期基本計画・次期総合戦略策定に向けて》</p> <p>● 重要視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 計画策定に向けた新たな視点（取り入れるべき視点）の過不足 ・ 高梁市「幸福度」向上に向けた着眼点 <p>● 総合計画・総合戦略骨子（案）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 横断施策、重点施策庵の内容について

R7改訂版人口ビジョンの考え方と将来推計（案）



(1) 人口動態の主要ポイントの現状整理

高梁市の人口動態における現状と課題をまとめると、以下の通りです。

項目	現状と課題
若年層の転出 (特に女性)	<ul style="list-style-type: none">・ 転出のきっかけは「転勤」「転職」「就職」の合計が51.7%を占めており、仕事が最も大きな転出の要因と言えます。特に20～30歳代では、高梁市に帰還するための条件として「高梁市の近くで就職・転勤・転職できたら」との回答が最も多く、全体の3割以上を占めました。希望する仕事があれば、転出を抑制できる可能性がうかがえます。^{*1}・ 転出先を選ぶ理由には「通勤・通学の便」「配偶者や親族・知人が近くに住んでいる」「買い物に便利」「住宅事情が良い」が順に挙げられており、これらを改善できれば転出抑制につながると考えられます。^{*2}・ 吉備国際大学のほとんどの学生は卒業とともに市外企業へ就職しており、若者の転出に繋がっています（学生の就職先選びのニーズ等をアンケート調査実施中）。・ 岡山市・倉敷市・総社市・吉備中央町への転出が多く、なかでも総社市から高梁市に通勤・通学する人が増えています。生活利便性や子育て環境等の暮らしの環境整備で、転出抑制が図れる可能性があります。・ 高梁市で子育てしにくいと思う理由として、「妊娠から出産後までの医療体制が十分でない」「子どもを安心して育てられる環境が少ない」「働きたい場所（職種）がない」「柔軟な働き方ができない」といった項目が挙げられています。^{*1}
若年層の転入 (特に女性)	<ul style="list-style-type: none">・ 転入のきっかけは「転勤」「転職」「就職」の合計が41.2%を占めており、仕事が最も大きな転入の要因と言えます。特に若年層で仕事を要因とする割合が高い傾向にあり、20歳代で63.2%、30歳代で49.1%、40歳代で45.9%が仕事をきっかけに転入してきています。^{*1}・ 若年層に限らず、プロモーションが転入へ与える影響はどの年代でも5%以下^{*1}となっており、移住先を探している層に対して、高梁市の情報が適切に届いていないと考えられます。「自然環境」「人の温かさなど住民の印象」「駅、図書館等の施設」については、転出者アンケートにおいて「現在の居住地より高梁市の方が良かった点」として上位3位の回答を得た項目であり、血縁・地縁以外での転入促進に向けたPRポイントになると考えられます。・ 首都圏・京阪神圏からの転入が一定数見られるため、遠方も含めた情報発信（シティプロモーション）が重要と考えられます。・ また、10～19歳の転入者数が大きく減少している要因として、吉備国際大学の学生数が、過去10年間で40%減少していることが影響していると考えられますが、2025年に増加に転じています。・ 外国人人口は、2014年以降の長期的には増加傾向ですが、2020年以降は大きな増減が見られません。ただし特定技能1号の人口は近年着実に増えてきています。
未婚率	<ul style="list-style-type: none">・ 未婚率が高い要因として、25-34歳の総人口に対する男性比率が高く（25-29歳で平均+10ポイント、30-34歳で平均+4ポイント）、若年層における男女のバランスが崩れていることが考えられます。・ 高梁市は定住率が低く、結婚希望がある未婚女性や結婚時の女性の転出が生じており、女性有配偶率が低くなっている可能性があります。

^{*1}『令和6年度 高梁市転入転出者実態調査』より

^{*2}『令和6年度 高梁市若者意識調査』より

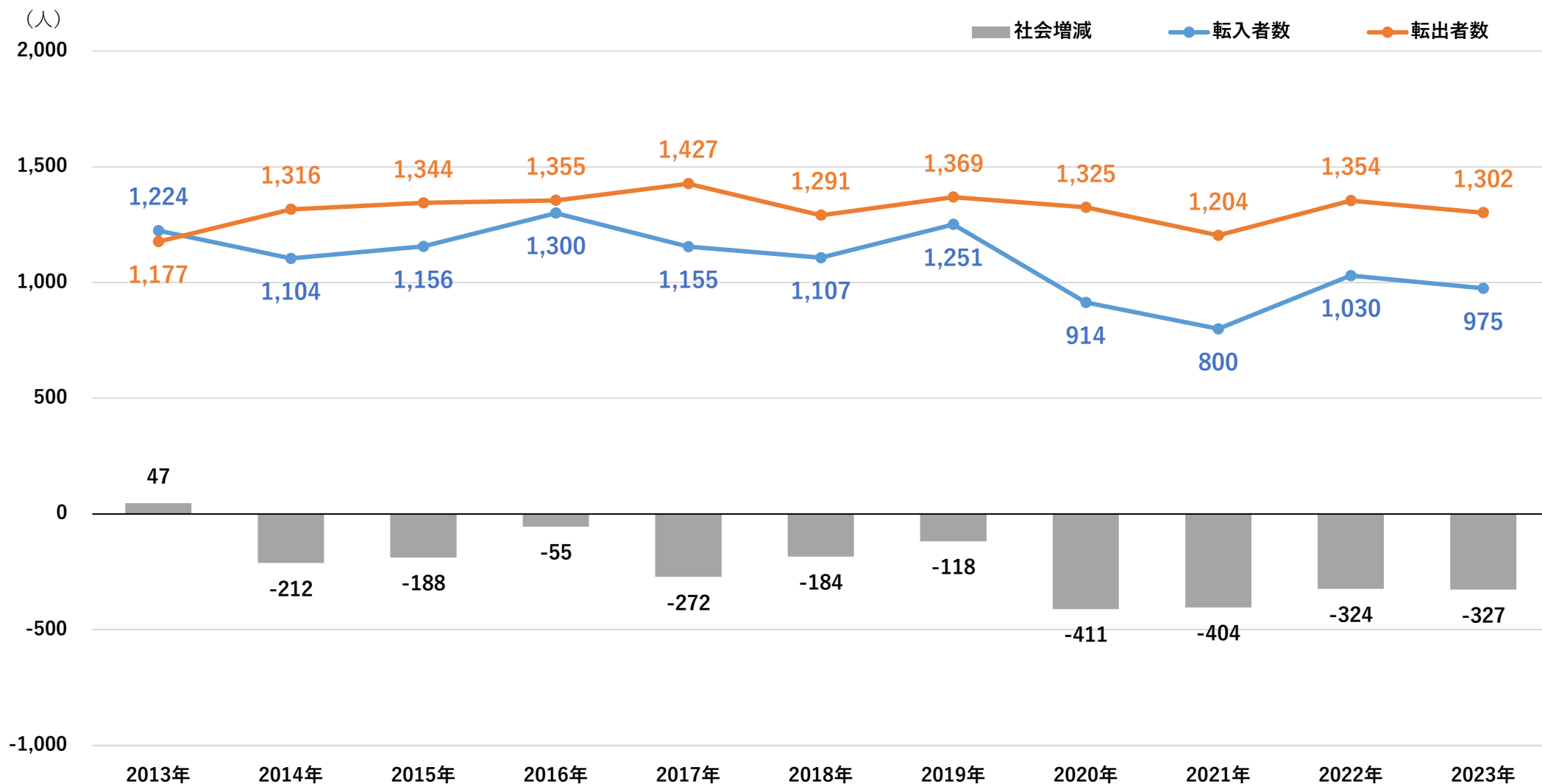
その他、本資料p3-14より抜粋

(1) 人口動態の主要ポイントの現状整理

《社会動態》

- ・ 2014年以降、転出者数が転入者数を上回る転出超過で推移しています。転出者数と比べると、転入者数はCovid-19の影響から回復している一方で、2013年以降の長期的には減少傾向が見られます。

○高梁市における社会動態の推移

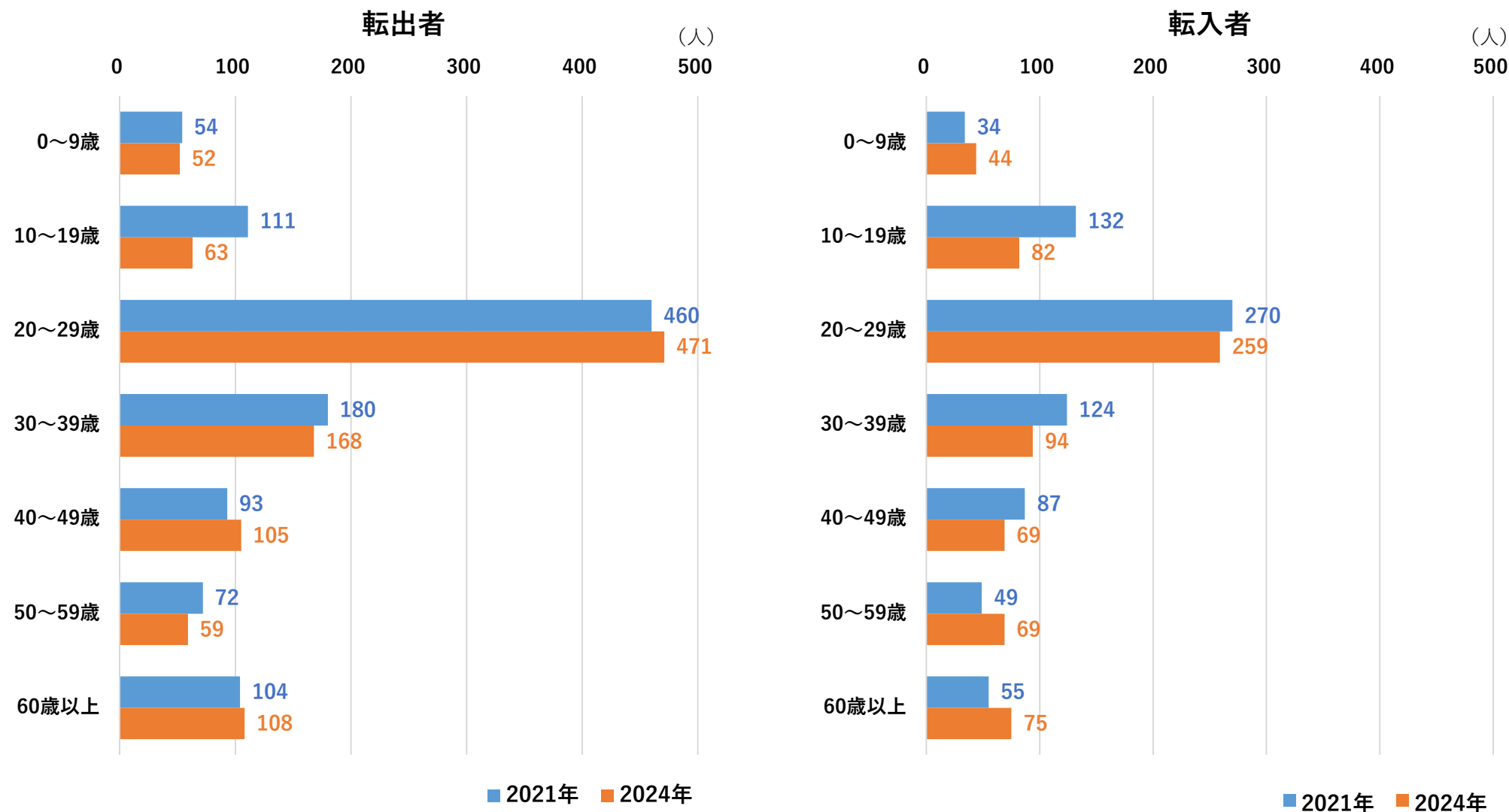


(1) 人口動態の主要ポイントの現状整理

《社会動態》

- 年齢別人口移動数は、10～19歳と50～59歳を除き、転出超過の傾向が見られます。また、2014年と比べると、2024年は10～19歳の転出者数が43.2%減少、10～19歳の転入者数が37.9%減少となり、転出者・転入者ともに大きく減少しています。

○高梁市における年齢別人口移動数の推移

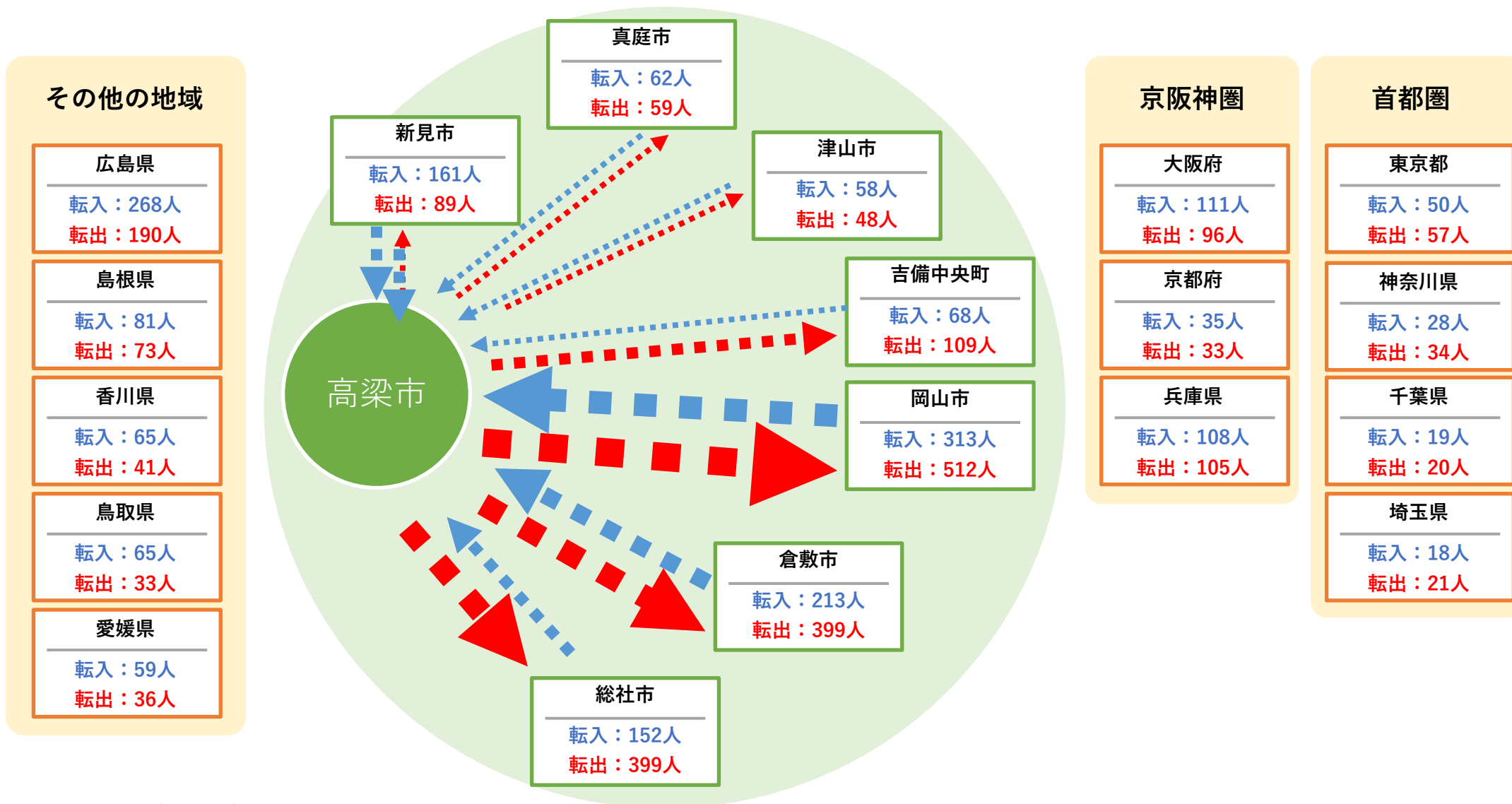


(1) 人口動態の主要ポイントの現状整理

《社会動態》

- 新見市、真庭市、津山市との移動が転入超過となっており、新見市からの転入が比較的多くなっています。岡山市、倉敷市、総社市、吉備中央町との移動では転出超過となっており、特に岡山市への転出（512人）と最も多くなっています。

○高梁市における主な県内移動（転入・転出）



(1) 人口動態の主要ポイントの現状整理

《社会動態》

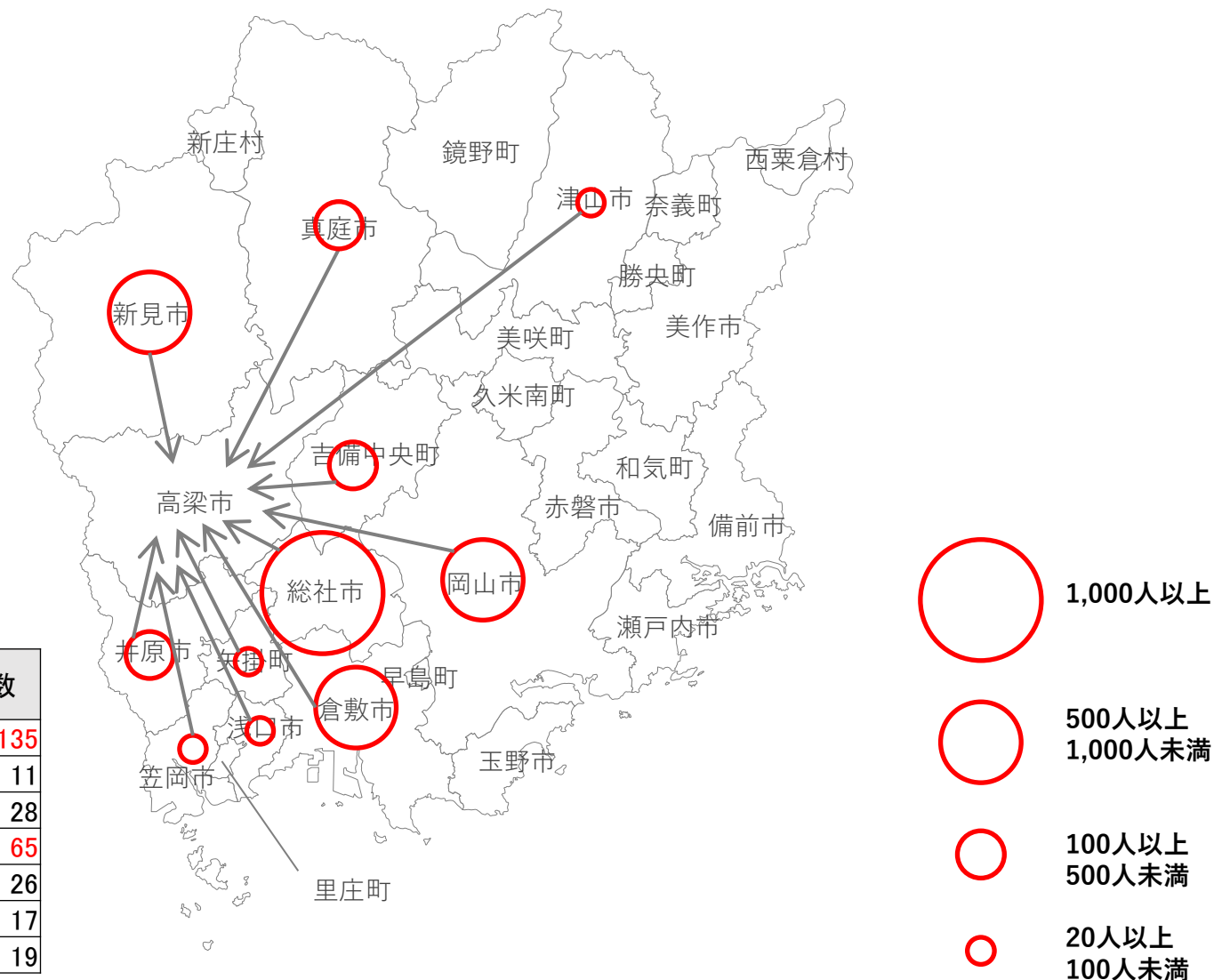
- 他市町村に常住し高梁市へ通勤・通学している人は、令和2年に4,567人、そのうち最も多いのが総社市の1,310人、次に倉敷市、新見市、岡山市が500～600人の流入人口となっています。広島県福山市からも53人の通勤・通学者がみられます。
- 前回調査(平成27年度)と比較すると、総社市から高梁市へ通勤・通学する人が135増えていますが、他市町村からの通勤・通学はいずれも減少しています。

○高梁市内への通勤・通学人口

●高梁市への通勤・通学者数(人)

	令和2 (2020)年	平成27 (2015)年	増減数
総社市	1,310	1,175	135
倉敷市	643	654	△ 11
新見市	611	639	△ 28
岡山市	549	614	△ 65
真庭市	438	464	△ 26
吉備中央町	426	443	△ 17
井原市	207	226	△ 19

出典)国勢調査



(1) 人口動態の主要ポイントの現状整理

《社会動態》

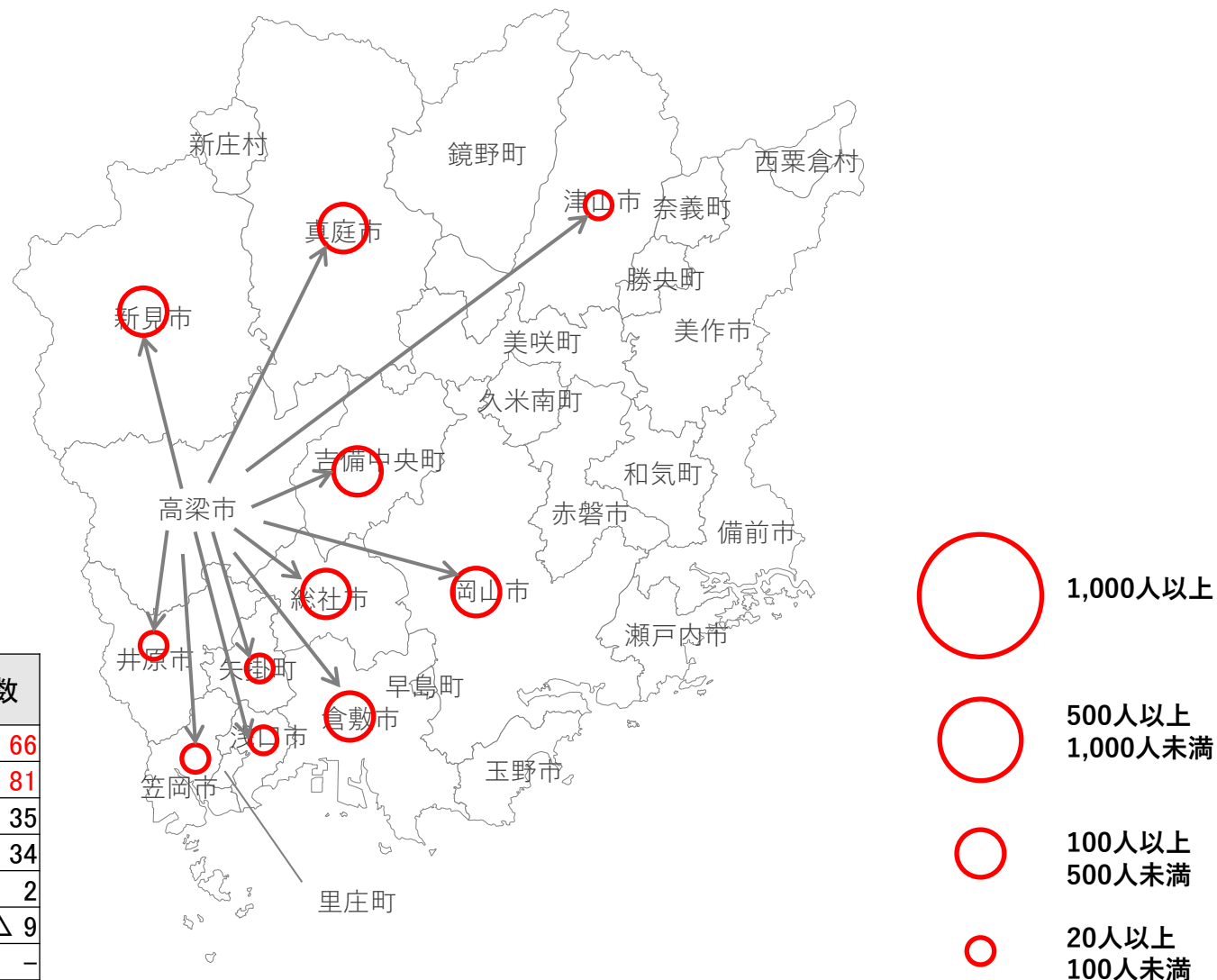
- 高梁市から他市町村へ通勤・通学する人は令和2年に2,441人みられ、総社市、岡山市、倉敷市へ400人以上が通勤・通学しています。
- 前回調査(平成27年度)と比較すると、高梁市から総社市、岡山市へ通勤・通学する人が50以上減っており、いずれの自治体でも500人を切っています。

○高梁市からの通勤・通学人口

●高梁市からの通勤・通学者数(人)

	令和2 (2020)年	平成27 (2015)年	増減数
総社市	489	555	△ 66
岡山市	435	516	△ 81
倉敷市	407	442	△ 35
吉備中央町	354	320	34
新見市	260	258	2
真庭市	112	121	△ 9
井原市	-	114	-

出典)国勢調査

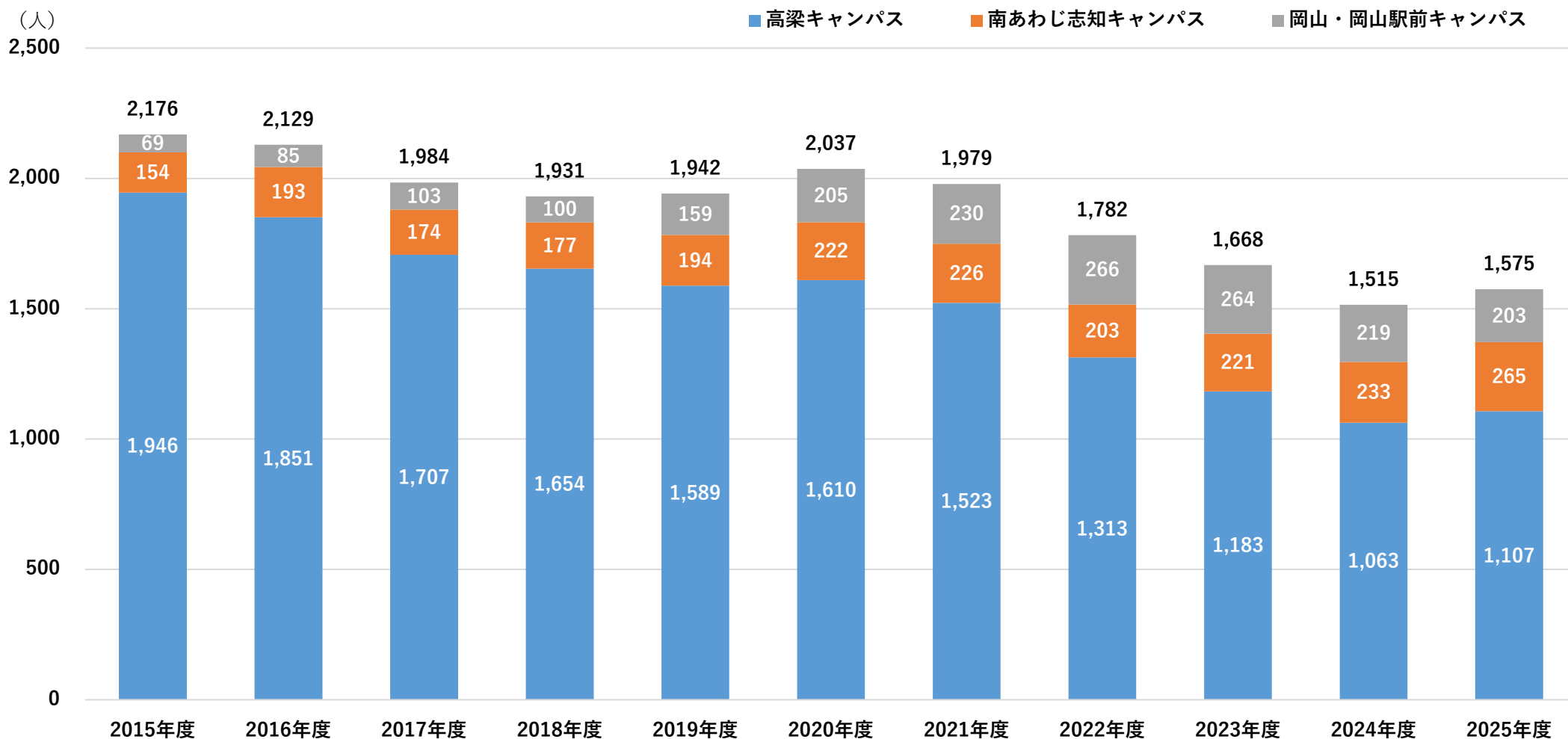


(1) 人口動態の主要ポイントの現状整理

《社会動態》

- 吉備国際大学の学生数は減少傾向にあります。学生数に占める高梁キャンパスの割合は、2015年度が89.4%、2025年度が70.3%となっています。吉備国際大学の学生数の減少と併せて、**高梁キャンパスの学生数の割合も低下していますが、2025年度は増加に転じています。**

○吉備国際大学の学生数の推移



注1：学生数は、学部・大学院・大学院（通信制）・留学生別科を含む

注2：高梁キャンパス（高梁市）、南あわじ志和キャンパス（南あわじ市）、岡山・岡山駅前キャンパス（岡山市）

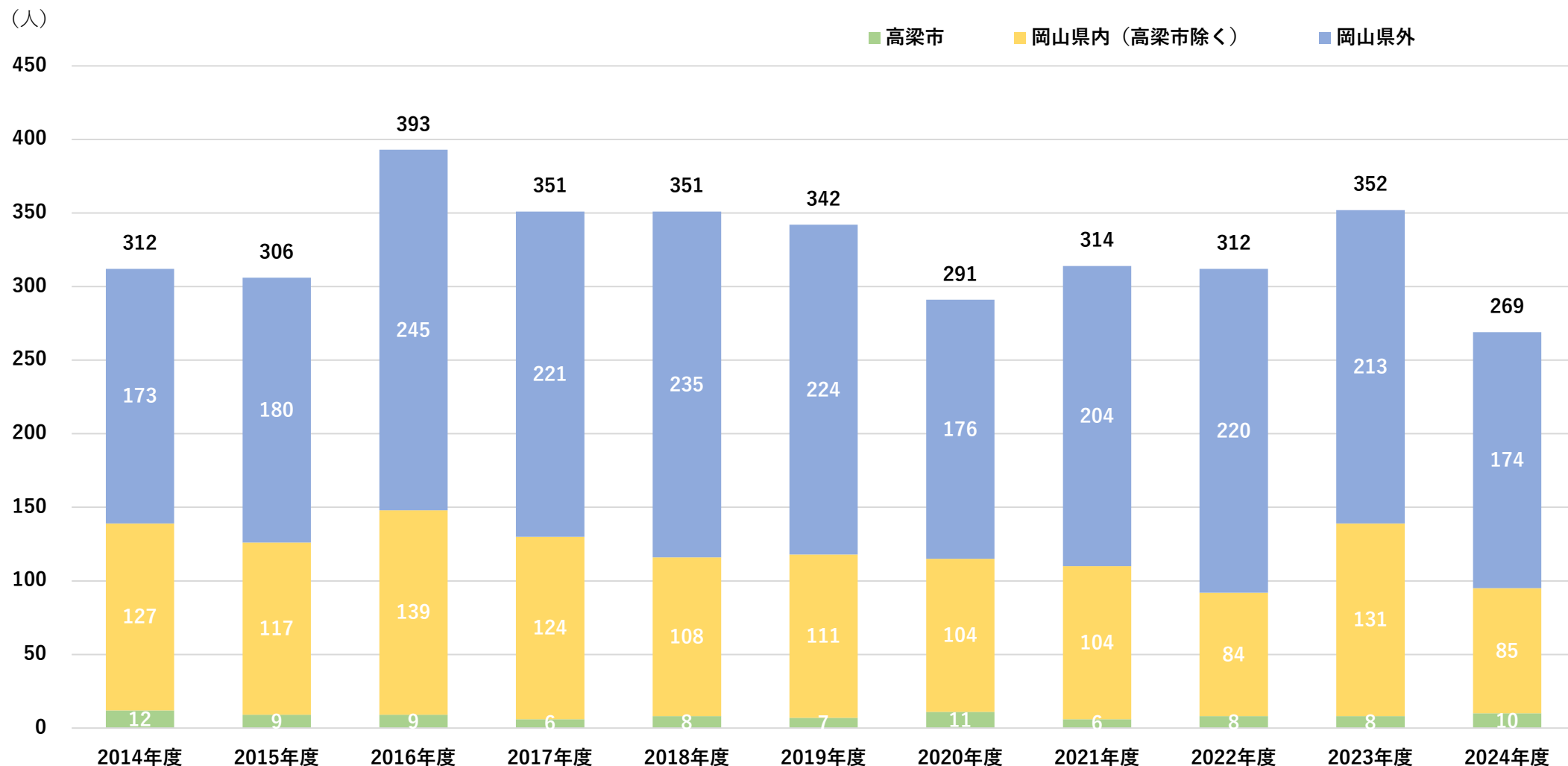
出典：吉備国際大学提供データ「学生数推移（R7）」

(1) 人口動態の主要ポイントの現状整理

《社会動態》

・吉備国際大学の学生の就職先は、岡山県外、岡山県内（高梁市除く）、高梁市の順に多い傾向が見られます。2024年度の卒業者数に占める高梁市の就職者数は3.2%、就職者総数に占める高梁市の就職者数は3.7%となっています。

○吉備国際大学の学生の就職先

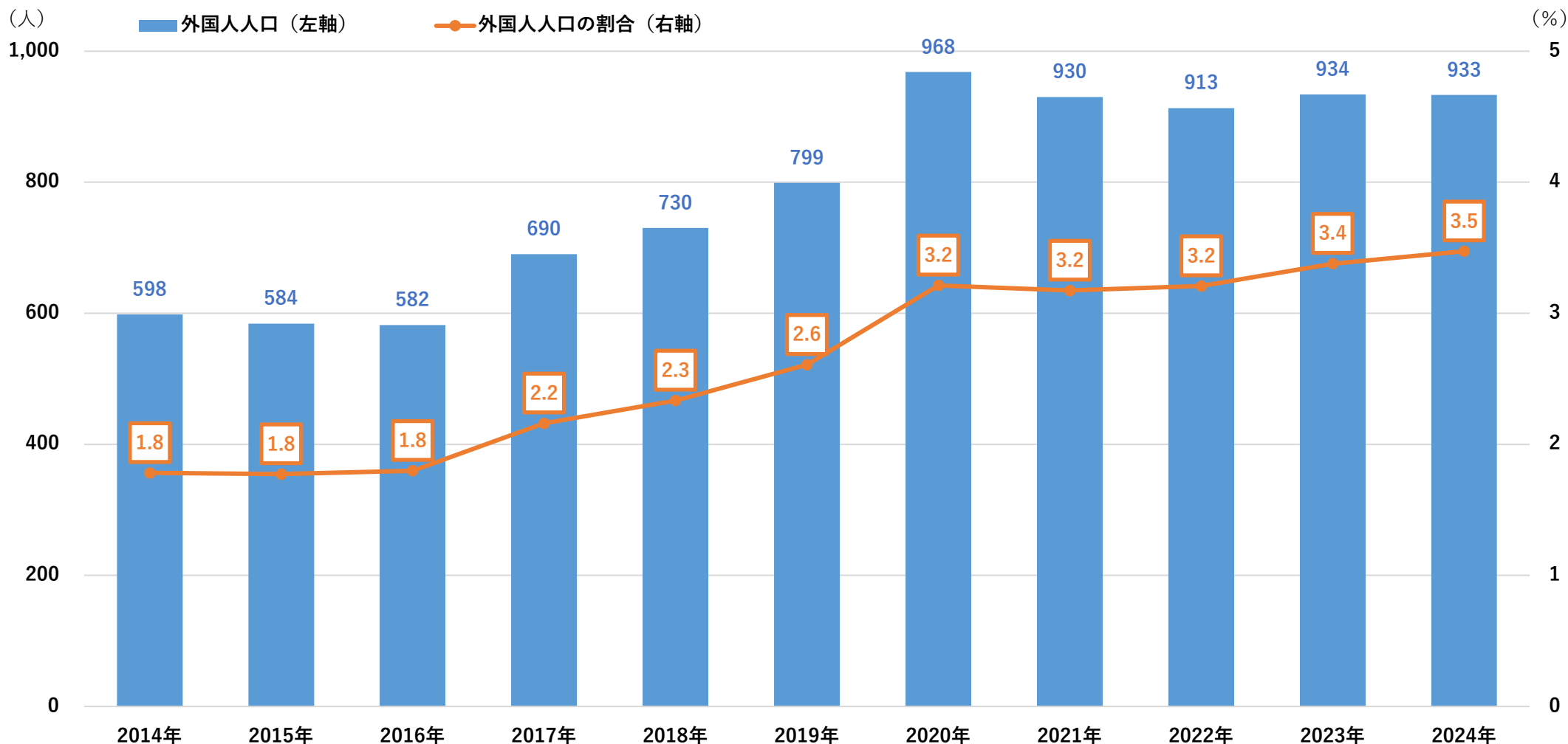


(1) 人口動態の主要ポイントの現状整理

《社会動態》

・ 外国人人口は、2014年以降の長期的には増加傾向ですが、2020年以降は大きな増減が見られません。外国人人口の割合は、2014年から2024年の10年間で1.7ポイント上昇しています。

○高梁市における外国人人口の推移

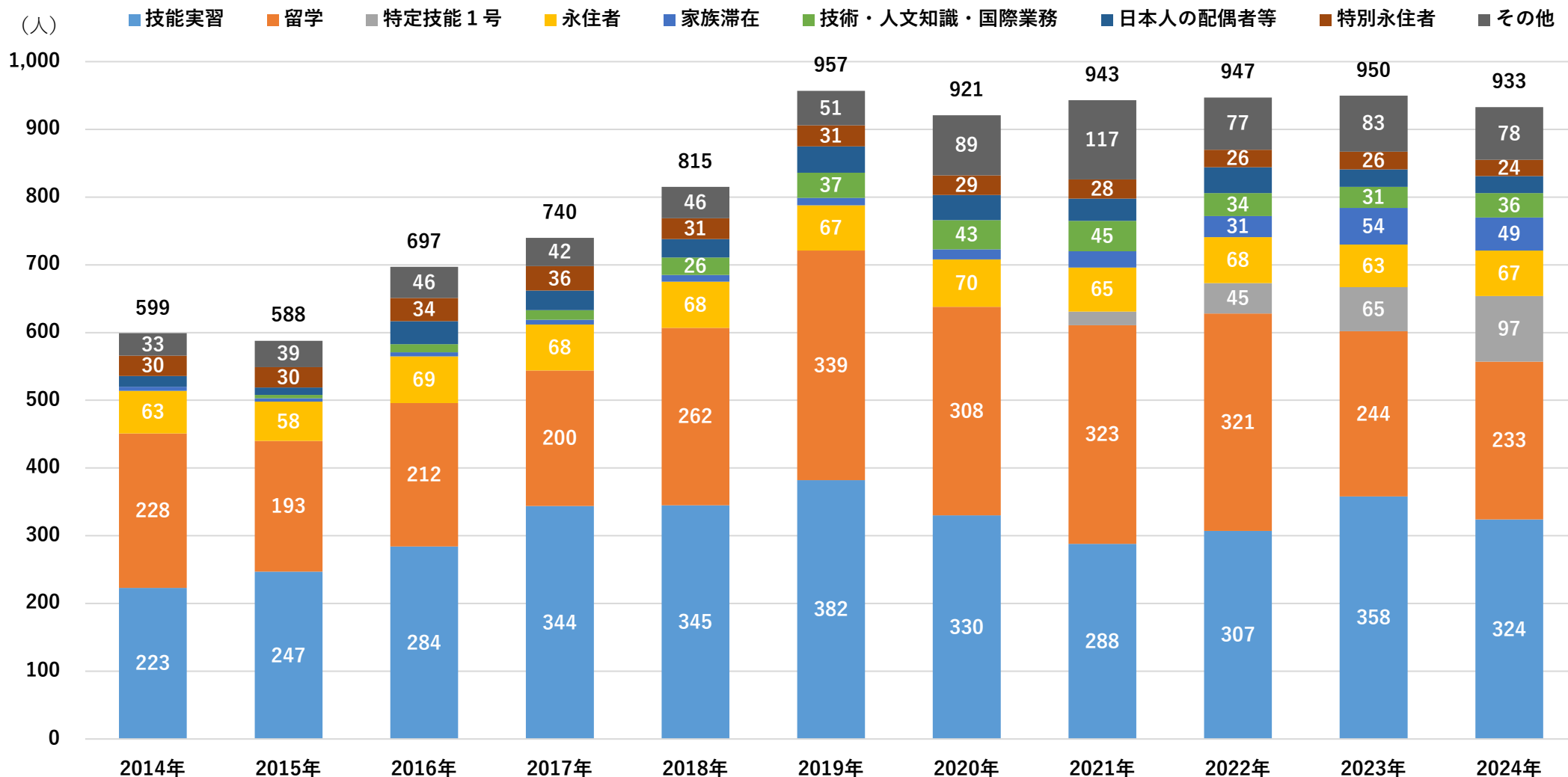


(1) 人口動態の主要ポイントの現状整理

《社会動態》

・在留資格別では、「技能実習」と「留学」の2つの在留資格で全体の50%を超えて推移しています。「技能実習」と「留学」に大きな増減が見られなくなっている一方で、2019年4月開始の「特定技能1号」は増加傾向が見られます。

○高梁市における在留資格別外国人の推移

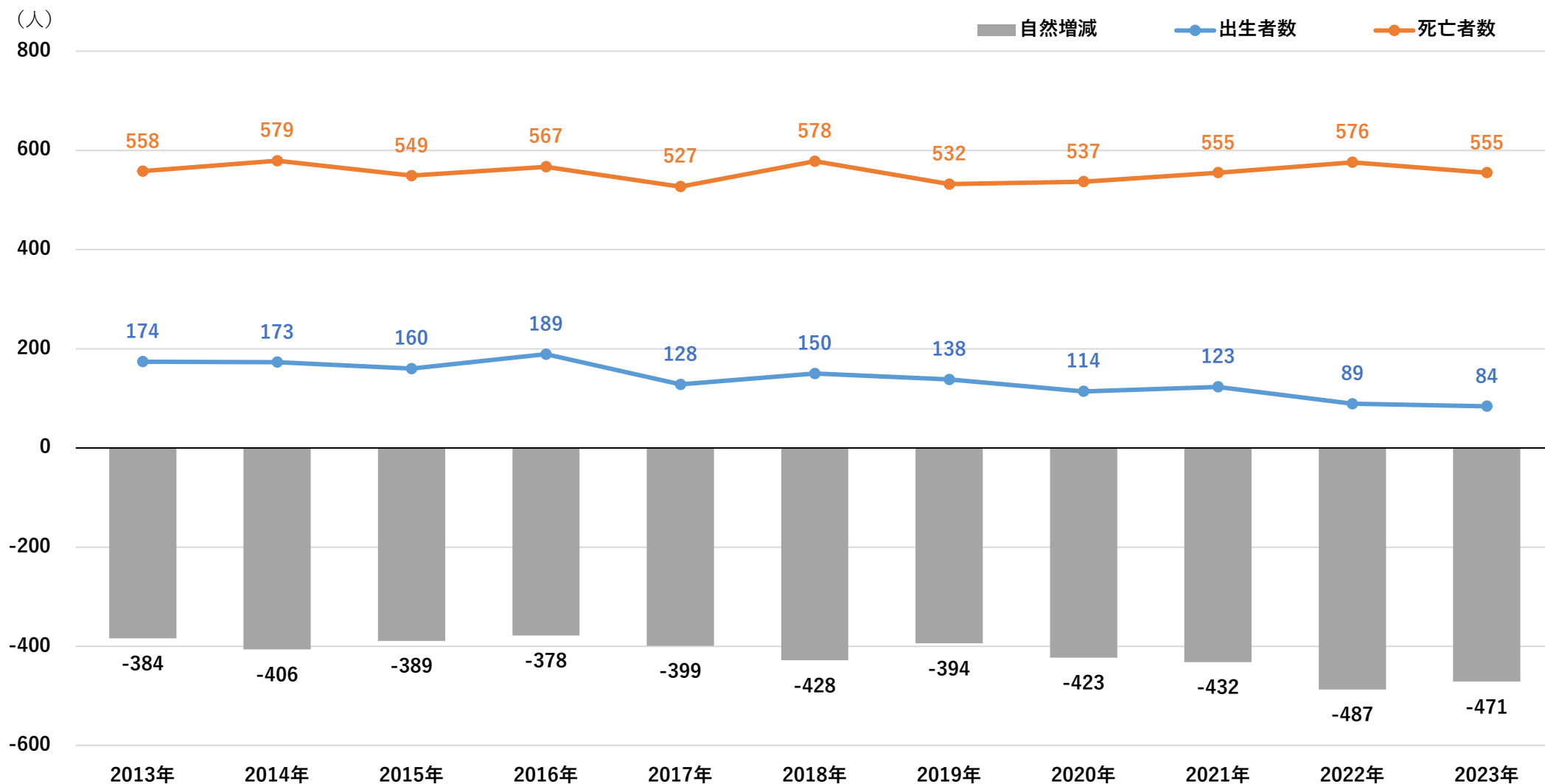


(1) 人口動態の主要ポイントの現状整理

《自然動態》

- ・ 出生者数が死亡者数を下回る自然減で推移しています。死亡者数に大きな増減は見られませんが、出生者数が減少傾向であるため、自然増減の減少者数に増加傾向が見られます。

○高梁市における自然動態の推移

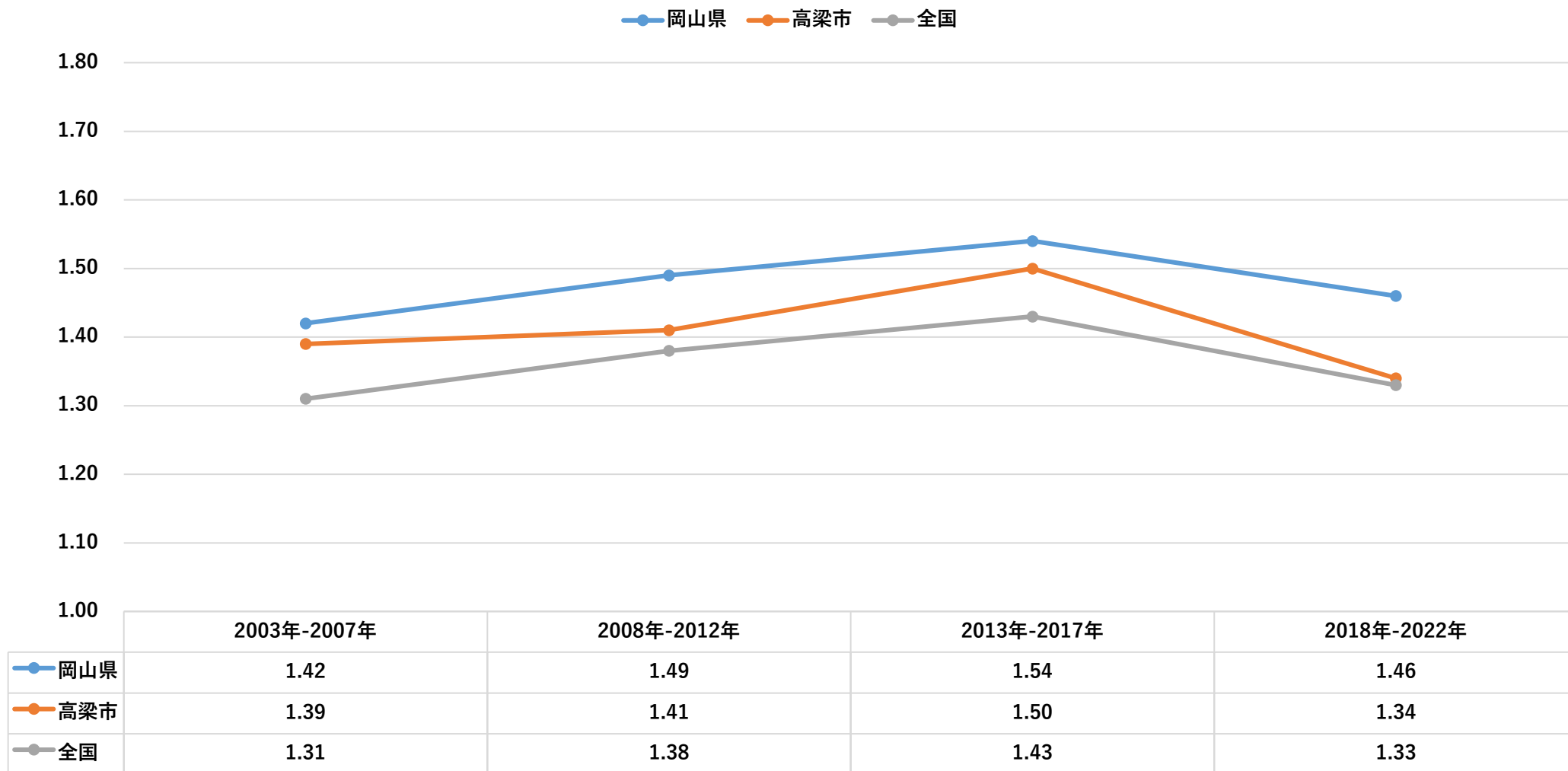


(1) 人口動態の主要ポイントの現状整理

《自然動態》

- ・ 高梁市の合計特殊出生率は、一時向上したものの、近年は低下しています。高梁市の合計特殊出生率は、全国と比較すると高い傾向で推移していますが、岡山県との比較では低い傾向で推移しています。

○合計特殊出生率の推移

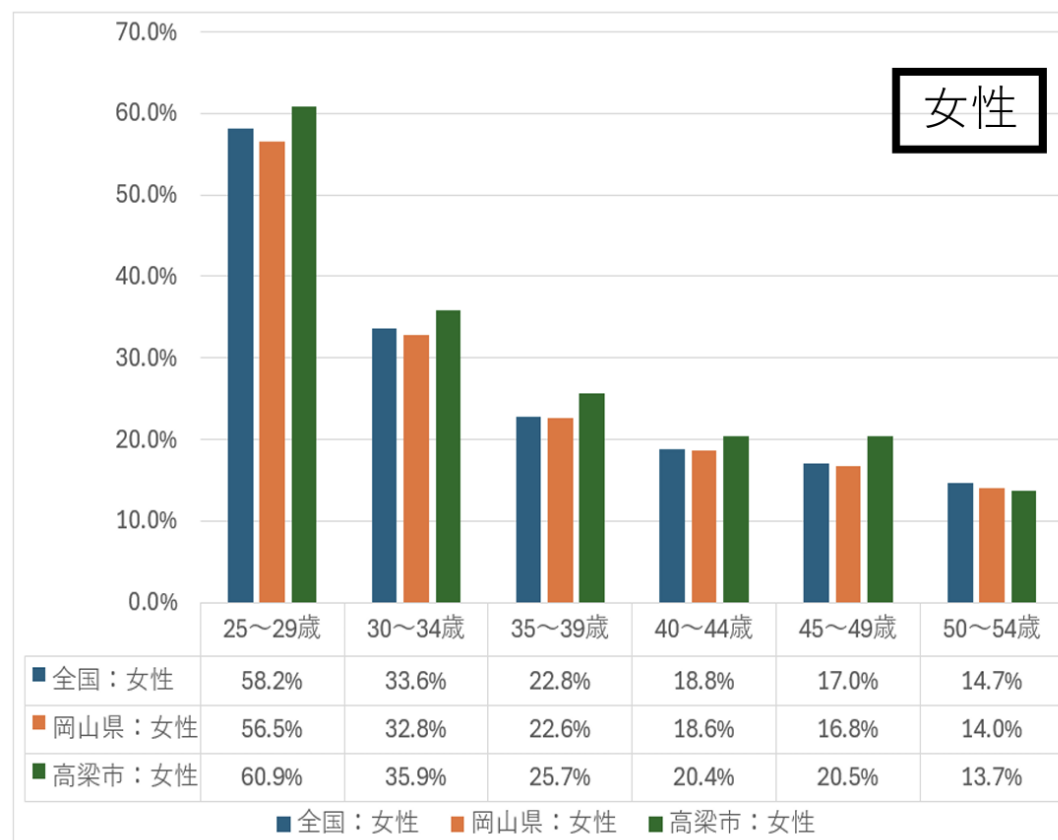
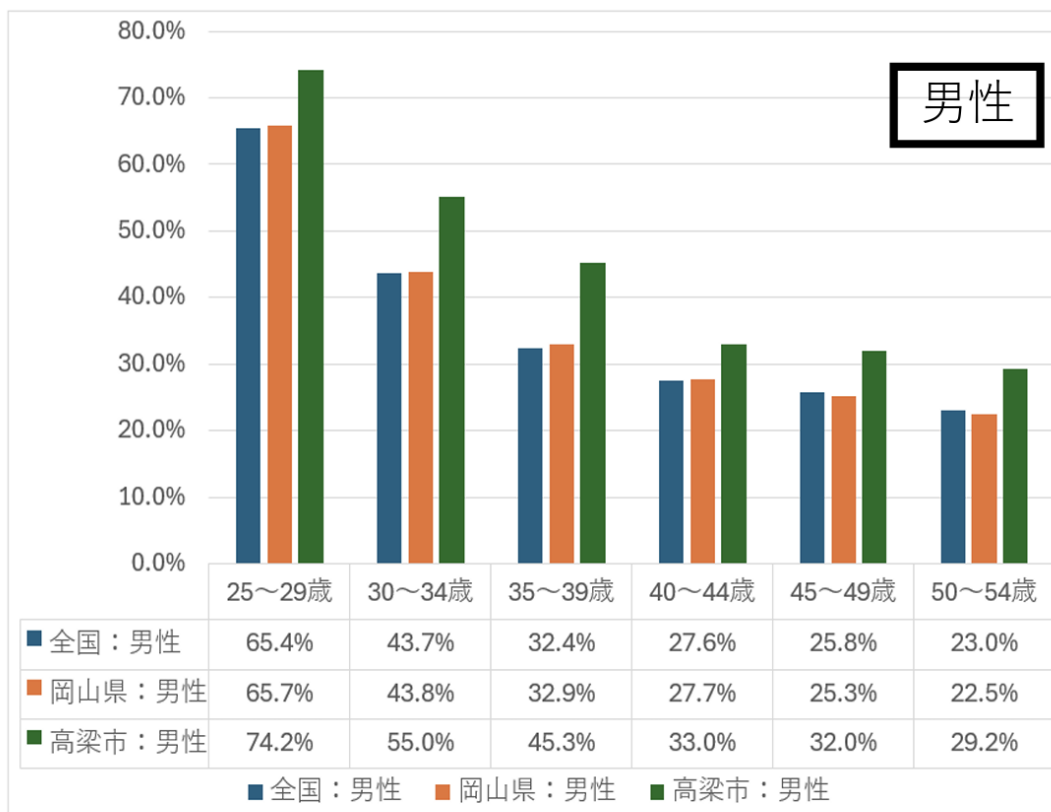


(1) 人口動態の主要ポイントの現状整理

《未婚率》

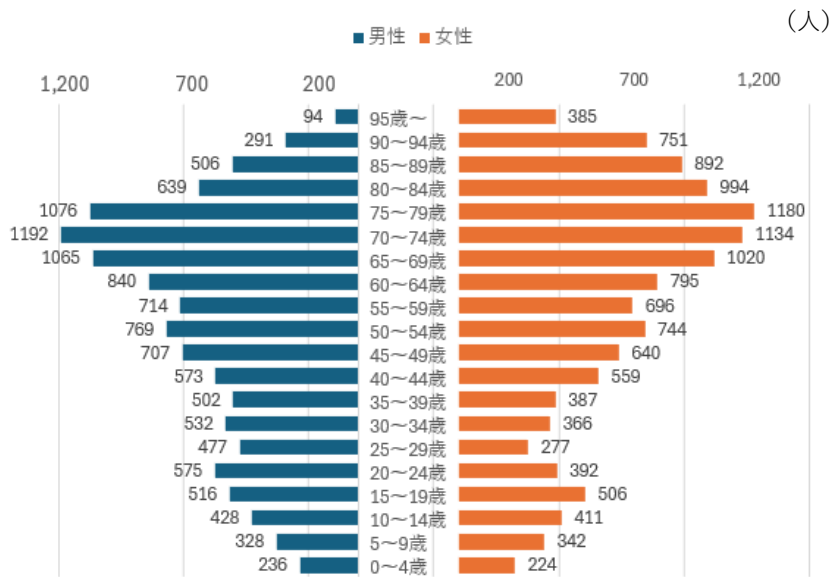
- 2005年と比べて、男女ともに未婚率はどの年代でも上昇していますが、5歳階級別に高梁市と全国・岡山県の未婚率の差を見ると、女性については、35-39歳と45-49歳で3ポイント以上高く、男性については、35-39歳で10ポイント前後高くなっています。
- 25-34歳の男女比を見ると、総人口に対する男性比率が高く（25-29歳で平均+10ポイント、30-34歳で平均+4ポイント/いずれも2020年国勢調査より）、若年層における男女のバランスが崩れています。

○高梁市における男女別未婚率の推移



趨勢人口（このまま何もしなければ）の長期推計を提示した上で、**高梁市として目指す状態を見据え**、その実現に向けた人口シミュレーションのシナリオを提示します。

人口ピラミッド(2025年)



【現状】

- ・急激な人口減少に加え、年少人口が少なく、今後その割合がより一層減少することが予想されます。

⇒今の地域社会の機能の維持が困難になることが見込まれます。

【目指す状態】

- ・高梁市総合計画の都市像である「**健幸都市たかはし**」が打ち出すように、「**住民が健康で安心して暮らせるだけでなく、生きがいを持ち、地域への愛着や誇りを感じながら心豊かに生活できるまち**」を実現したいと考えています。

⇒将来にわたり地域社会を支える人のつながりと活力が維持されることが不可欠です。

⇒人口ビジョンにおいては、年齢や男女の構成が偏ることなく持続可能な人口バランスを保つことを重視します。

【シナリオ】

- ・シナリオ1：「出生率向上」
- ・シナリオ2：「出生率向上」 + 「若年層(20代)の転出抑制・転入促進」
- ・シナリオ3：「出生率向上」 + 「若年女性の転出抑制・転入促進」
- ・シナリオ4：「出生率向上」 + 「若年層(20代) + 若年女性の転出抑制・転入促進」

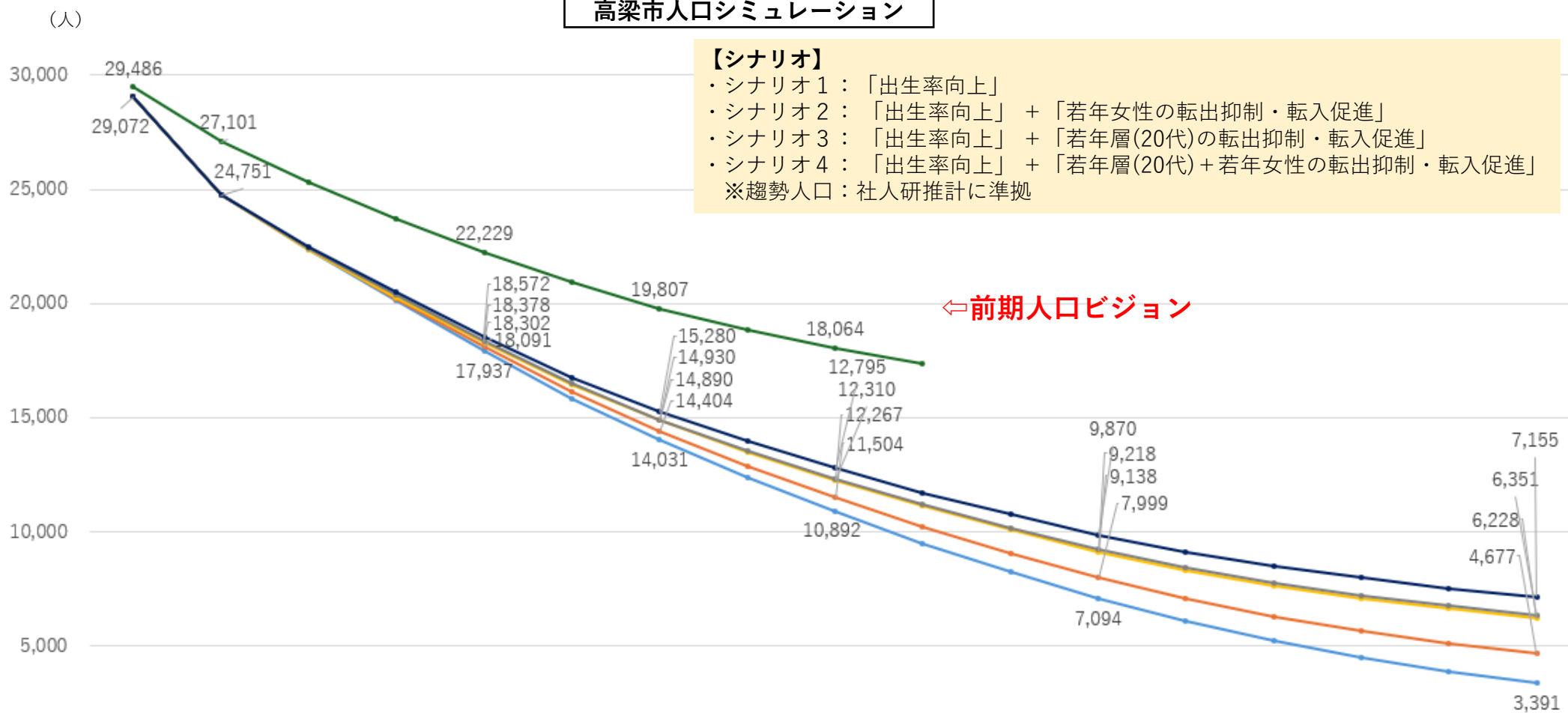
(3) 超長期人口シミュレーション

各シナリオによる人口推計シミュレーションの結果は以下の通りです。

高梁市人口シミュレーション

【シナリオ】

- ・シナリオ1：「出生率向上」
 - ・シナリオ2：「出生率向上」 + 「若年女性の転出抑制・転入促進」
 - ・シナリオ3：「出生率向上」 + 「若年層(20代)の転出抑制・転入促進」
 - ・シナリオ4：「出生率向上」 + 「若年層(20代) + 若年女性の転出抑制・転入促進」
- ※趨勢人口：社人研推計に準拠



	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年	2075年	2080年	2085年	2090年	2095年	2100年
趨勢人口	29,072	24,751	22,380	20,143	17,937	15,862	14,031	12,384	10,892	9,520	8,240	7,094	6,092	5,245	4,525	3,918	3,391
前期人口ビジョン	29,486	27,101	25,290	23,703	22,229	20,925	19,807	18,860	18,064	17,404							
シナリオ1	29,072	24,751	22,408	20,223	18,091	16,112	14,404	12,876	11,504	10,234	9,054	7,999	7,083	6,314	5,672	5,138	4,677
シナリオ2	29,072	24,751	22,367	20,294	18,302	16,465	14,890	13,502	12,267	11,137	10,088	9,138	8,326	7,652	7,103	6,634	6,228
シナリオ3	29,072	24,751	22,415	20,364	18,378	16,524	14,930	13,537	12,310	11,193	10,157	9,218	8,420	7,760	7,224	6,762	6,351
シナリオ4	29,072	24,751	22,479	20,494	18,572	16,789	15,280	13,961	12,795	11,734	10,756	9,870	9,117	8,494	7,987	7,547	7,155

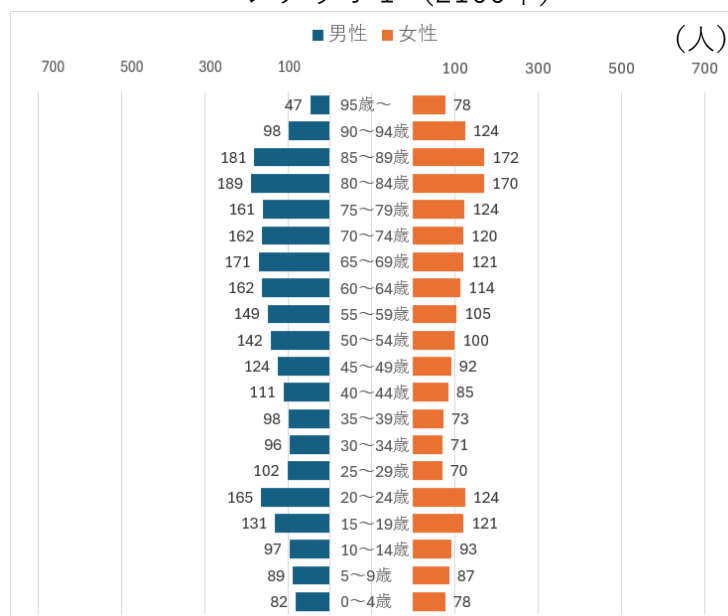
各シナリオの設定とシナリオにおける狙いは以下の通りです。

シナリオ	シナリオ設定	狙い
シナリオ 1	<ul style="list-style-type: none"> ・出生率は県に従い、2050年に出生率1.8、2060年2.07に到達するように設定 ※0～4歳人口 2050年時点で107人増（趨勢人口249人⇒356人） 2060年時点で124人増（趨勢人口177人⇒301人） 	<ul style="list-style-type: none"> ・県の同じ水準の出生率を目指す ・人口が急激に減少する中で、社会増だけでなく、自然増を目指す（前提）
シナリオ 2	<ul style="list-style-type: none"> ・シナリオ 1 の出生率向上に加え、女性の出産年齢人口(20～44歳)の純移動率を改善した場合の推計を実施 ⇒2025年以降、5歳階ごとに5%改善（例：2050年時点） 20～24歳：43人改善（趨勢人口230人⇒273人に改善） 25～29歳：21人改善（趨勢人口138人⇒159人に改善） 30～34歳：41人改善（趨勢人口197人⇒238人に改善） 35～39歳：64人改善（趨勢人口234人⇒298人に改善） 40～44歳：80人改善（趨勢人口236人⇒316人に改善） 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内に定着又は転入する結婚/出産を考える年齢層の女性増すことで、間接的ではあるが、市全体での未婚率の低下、出生率の向上に繋げる
シナリオ 3	<ul style="list-style-type: none"> ・シナリオ 1 の出生率向上に加え、20代の男女の人口移動に関して、転出超過が縮小し、改善していくことを前提とした場合の推計を実施 ⇒2025年以降、20～24歳で10%、25～29歳で5%改善（例：2050年時点） 男性 20～24歳：64人改善（趨勢人口303人⇒367人に改善） 25～29歳：36人改善（趨勢人口202人⇒238人に改善） 女性 20～24歳：53人改善（趨勢人口230人⇒283人に改善） 25～29歳：29人改善（趨勢人口138人⇒167人に改善） 	<ul style="list-style-type: none"> ・若年世代の定着、若しくは転入を図り、生産年齢人口且つ子育て世代になりう若年世代を増やす ⇒市内の大学生の市内定着促進を強化する
シナリオ 4	<ul style="list-style-type: none"> ・シナリオ 1、2、3 を組み合わせて推計を実施（純移動率の最大値を採用） 	<ul style="list-style-type: none"> ・若年世代、出産年齢人口両方を増やすことで、生産年齢人口の増加、未婚率の低下、出生率の向上（による年少人口の増加）に繋げる

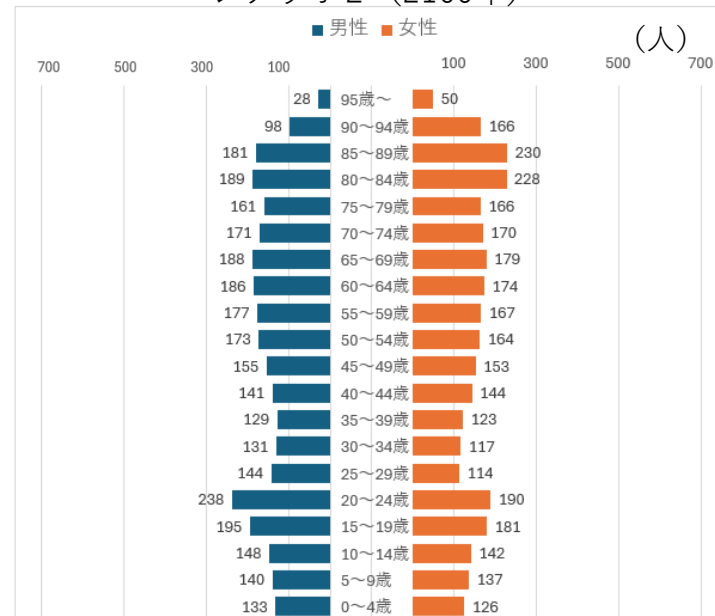
(5) 各シナリオにおける人口ピラミッド (2100年)

2100年時点の、各シナリオにおける人口ピラミッドは以下の通りです。シナリオ2～4の間で大きな規模の差はみられないものの、**シナリオ4が最も年齢層別の人口分布および男女比の観点から安定した人口構造**になっています。

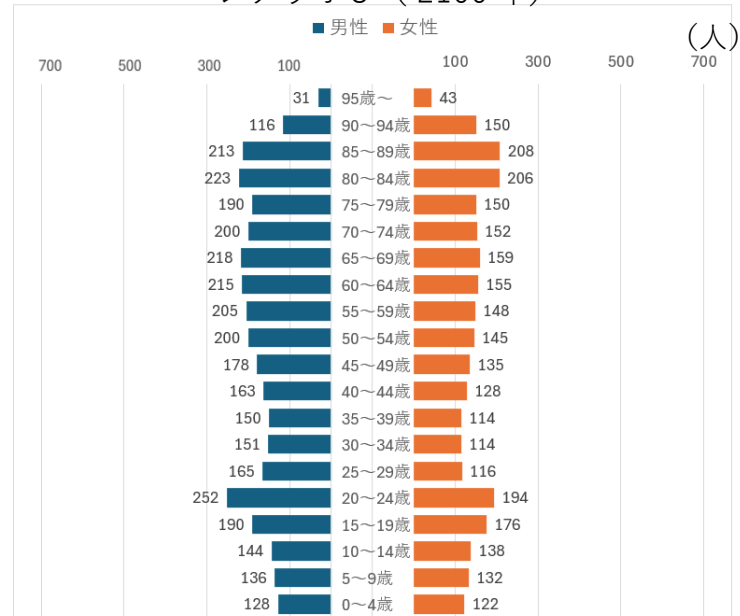
シナリオ 1 (2100年)



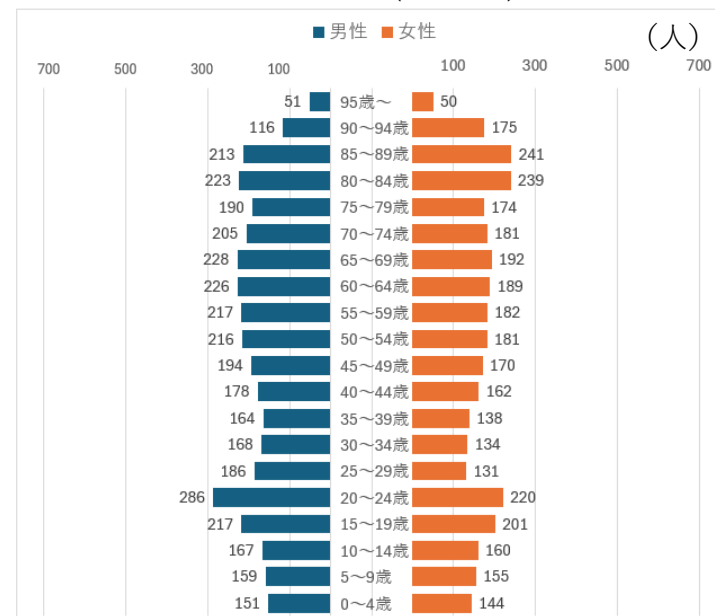
シナリオ 2 (2100年)



シナリオ 3 (2100年)



シナリオ 4 (2100年)



(6) 人口ビジョン 将来人口推計 実施手法

【基準年人口と推計手法】

- ・ 社人研推計に準拠（基準年は2020年）

【推計手法】

- ・ **コーホート要因法**にて実施（シナリオに応じた人口推計が可能なため
※シナリオに応じた自然増減、社会増減の傾向のカスタマイズが可能）

【純移動率】

- ・ 社人研「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」において公表される、高梁市の純移動率の値を使用
※1: 2050年以降は、2050年の値を使用
※2: シナリオ2~4では、社人研の純移動率カスタマイズして推計（2050年以降は2050年の設定値を使用）

【生残率】

- ・ 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」において公表される、高梁の生残率の値を使用 ※2050年以降は、2050年の値を使用

【子ども女性比（20-44歳女性人口に対する0-4歳人口の比）】

- ・ 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」において公表される、高梁の子ども女性比の値を使用 ※2050年以降は、2050年の値を使用
※1: 趨勢人口推計では、2070年以降は2070年の値を使用
※2: シナリオ1~4では、目指すべき合計特殊出生率を子ども女性比に換算して使用（2060年以降は2060年の値を使用）。

【0-4歳性比】

- ・ 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」において公表される、高梁市の0-4歳性比の値を使用 ※2050年以降は、2050年の値を使用